

| 報告期間 | | ユーザー様名 | | S I 名・指導者名 | |
|--|-------|---|-------|------------|-------|
| 2006年 10月 5日 (木) から | | C 社様 | | 株式会社電算 | |
| 2007年 2月 1日 (木) まで | | | | 有賀 隆夫 | |
| 製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など) | | | | | |
| プラスチック成型部品(自動車部品、精密機器)、製品: 800種類 | | | | | |
| 生産形態、工程の要素 | | | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 組み立て <input type="checkbox"/> 機械加工 <input type="checkbox"/> 板金 <input type="checkbox"/> プレス <input type="checkbox"/> 溶接 <input type="checkbox"/> 塗装 <input type="checkbox"/> メッキ <input type="checkbox"/> 研磨 <input type="checkbox"/> 鋳物 <input type="checkbox"/> 鍛造 <input type="checkbox"/> 熱処理 <input type="checkbox"/> 実装、SMT <input type="checkbox"/> 溶解 <input type="checkbox"/> スリット <input type="checkbox"/> 切断 <input type="checkbox"/> 溶断 <input checked="" type="checkbox"/> 成型 <input type="checkbox"/> 圧延 <input type="checkbox"/> 凝固 <input type="checkbox"/> 接着 <input type="checkbox"/> 食品加工 <input type="checkbox"/> プラスチック加工 <input type="checkbox"/> 化学薬品 <input type="checkbox"/> 衣類(裁断・縫製・ホタ) <input type="checkbox"/> 皮、ゴム、紙加工 <input type="checkbox"/> 織、編 <input type="checkbox"/> 印刷(除マニュアル等)・手書き <input type="checkbox"/> 染色 <input type="checkbox"/> エッチング その他() | | | | | |
| 指導種類 | | <input checked="" type="checkbox"/> 新規導入 <input type="checkbox"/> バージョンアップ <input type="checkbox"/> 再導入 <input type="checkbox"/> その他() | | | |
| 今回指導回数 | | 1回目～18回目 | | | |
| TPiCSバージョン | | 3. 1 | | | |
| オプション・DB | | 受注販売、Oracle10g | | | |
| アイテム件数 | 2000件 | BOM | 5000件 | 所要量計算 | 1回/1日 |
| 実績インプット | 件/日 | 伝票発行 | 1回/日 | 伝票発行 | 件/回 |
| 製番展開 | | | | | 回/月 |
| 製番展開 | | | | | 件/回 |
| 出席者 | | O氏、Y氏 | | | |
| 今回の指導目的 | | | | | |
| <p>TPiCS 導入について、全事業部門一斉でなく、まずは主力事業である成型部品事業で導入評価し他事業部へ展開していくご依頼を受けました。</p> <p>以前、パソコンベースの受発注の仕組みも導入したが現在は性能等システム上の問題も含めうまく運用できていない状況にあるとのことで、生産管理自体は、手書きの台帳やパソコン (Excel) で管理はしているが、得意先別の担当者毎に個別に管理されており、営業、生産管理、資材、製造など組織としては存在するが管理は個人にまかされている。そのため業務自体の標準化も難しく、業務の運用精度は個々の担当者のスキルに依存している状況があるとのことでした。今後は、業務分掌など組織的な対応を図ると同時に情報共有を行い、データを一元管理できる統合された生産管理システムが必要とされていました。</p> | | | | | |
| 経過 (発言者と内容) | | | | | |
| <p>■TPiCS 導入準備① (10月、11月)</p> <p>お客様の業務要件の概要を2回に亘り、個々の業務担当者からヒアリングを行いました。</p> <p>営業担当、原料調達、外注管理、生産管理など個々の担当者の業務をひとり何った結果、担当者間で業務的にかぶっている点が多く、ある得意先については営業が外注手配から作業指示まで管理していたり、原料調達担当が受注状況や生産指示状況を把握した上で人の判断で手配をかけているなど、業務および組織として集約、分化されていない状況が見受けられました。</p> <p>ただし、既にお客様の組織として業務改善を行いつつあるようでしたので、今後の業務分掌など決まり次第、システム導入のための業務要件としてフィードバックしていただくこととしました。</p> <p>もう1つの課題として、こちらから提案したプロジェクト体制案に対して、お客様より事前に</p> | | | | | |

プロジェクト体制図はいただきましたが、実際はプロジェクト開始時点で2名の方の参加しか得られず、また、その2名の担当者の方も定期的な打合せにもあまり時間がさけない状況が約2ヶ月続きました。人的工数の面で、上位のマネジメント層からの支援が得られない状況は暫く続き、TPiCS トレーニングも受講いただくこともできないまま、まずは TPiCS の基本的な機能の指導から少しずつ始めることとなりました。

■TPiCS 導入準備② (12月)

遅ればせながら、1名の担当の方がある程度専属に近い形で業務時間を TPiCS 導入作業に割り当てることができ、やっとプロトタイプの設定作業、評価作業が進み始めました。

まずは、外注先の工程も含む比較的複雑な管理が必要な代表的な1製品についてマスタ設定を行い、担当者の方が実際に TPiCS を動かしながらの評価作業を進めました。

12月末の時点では、未だ現場の業務担当者への詳細な業務要件の確認ができていない状況でしたので、早急に、現状業務に近いプロトタイプを構築し、現場の業務担当者への説明および評価を行ってもらうよう提案しました。

■TPiCS 導入準備③ (1月)

1月に入って、現場業務担当も交えてプロトタイプの評価が始まり、月末までにほぼ完了しました。

さらに現実的な評価を行うために、1月下旬より、1つの得意先製品(対象8品目)について棚卸を行い、1月末時点での内示および確定受注情報を元にデータ移行を行い、従来の業務と並行して TPiCS での材料発注、外注さんへの発注、作業指示等を開始しました。

一方、本来の業務の共通ルール化も進みつつあり、TPiCS を受け入れる体制も整ってきました。

結 論

【現時点までの評価】

現在は、一部並行稼働とはいいつつも十分な準備がなされてきたわけではないですが、対象データを絞った運用で、かつ従来の手作業管理と並行しているので今のところ業務支障をきたすような大きな問題は発生していません。

はじめから正式なプロジェクト体制のとれない組織においては、現場の担当者も巻き込んだ評価を行う現実的な方法としては、少し乱暴なですが、結果的に今回のような一部並行稼働の中で実際の業務の TPiCS 実装上の課題を抽出し、その場で対応していく方法が有効のようです。

ただ、これは本来の組織的な動きではなく、あくまで現場担当者の負担に依存する方法であり、本来であれば経営レベルの組織的なバックアップが必要な事柄です。

幸い、ここ1ヶ月で業務の共通化、ルール付けの動きが明確になり、関連部署の TPiCS 導入のための支援の動きも見えてきましたので、本稼働に向けて遅ればせながら体制が整いつつあります。

以上

